シンガポールにおけるインドネシアの富

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

歴史が形づくった関係

シンガポールとインドネシアの関係は、対立から始まりました。1960年代前半の対決政策（コンフロンタシ）の時期、インドネシアは当時シンガポールを含んでいたマレーシアの成立に反対し、海峡の向こうから破壊工作員を送り込みました。1965年初め、2人のインドネシア海兵隊員がオーチャード・ロードのマクドナルド・ハウスを爆破しました。1968年に2人が処刑されると、約300人の学生がジャカルタのシンガポール大使館を襲撃しました。外交関係が樹立されたのは、ASEAN創設の1か月後にあたる1967年9月7日のことでした。[1] その後の地域外交については、第F部第IV章で扱います。

経済的な結びつきは、ほどなく対立の記憶よりも強いことが明らかになりました。スハルト大統領の新秩序体制の下でインドネシアは急速に成長し、大規模な企業グループの一群が生まれました。その多くは華人系インドネシア人の家族が所有していました。こうした家族にとって、シンガ

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

ポールは自国がまだ提供できなかったものを備えていました。安定した通貨、契約を確実に履行させる銀行、コモンローの法制度、そして自らの言語と商業ネットワークが根づいた社会です。彼らはこの都市で口座を開き、不動産を購入し、持株会社や貿易会社を設立しました。第D部第III章で考察する1997〜1998年のアジア通貨危機と、1998年5月のジャカルタでの暴動は、こうした資本と家族の移動を加速させました。多くのグループは、それ以来、財務機能、経営、家族資産の一部をシンガポールに置き続けています。

インドネシア資産の規模

シンガポールにどれだけのインドネシアの富が保有されているかは、長らく推計と噂の域を出ませんでした。最初の確かな数字は、下記第4節で考察する2016〜2017年のインドネシアの税務恩赦からもたらされました。2017年3月末までに、インドネシアの納税者はシンガポールに保有する資産として751.19兆ルピアを申告しました。これは申告された国外資産全体の73.08%に相当し、英領ヴァージン諸島の7.48%、香港の5.47%、ケイマン諸島の5.14%を大きく上回るものでした。当時の報道から導かれる為替レートで換算すると、シンガポール分の数字は約560億米ドルに相当します。[2]

これらの数字は実際の金額を過小に示しています。対象となるのは参加者が申告を選んだ資産だけであり、英領ヴァージン諸島やケイマンの会社が保有する資産の多くも、それ自体がシンガポールから管理されていました。当時の推計は、シンガポールにあるインドネシアの富の総額をはるかに高く見積もっていました。恩赦の終了時に公表されたある分析は、インドネシア人がシンガポールに約2,600兆ルピアを保有し、そのうち約650兆ルピアが不動産などの投資不適格資産であると推計しました。あるインドネシアの税務アナリストは2016年、シンガポールの銀行の顧客の60%近くがインドネシア国民であると主張しました。[3] この数字を裏づける公式の

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

資料はなく、おそらく地域のプライベートバンキング顧客を指したものと思われます。それでも、ジャカルタから見てインドネシアの富がいかに中心的な存在に映っているかを示しています。

シンガポールから、またシンガポールを経由した投資の流れ

シンガポールは、インドネシアに対する外国直接投資の最大の出資国でもあります。インドネシア投資省によれば、シンガポールの投資家による投資は2024年に201億米ドル、2025年に174億米ドルで、同年の外国直接投資全体の約30%を占めました。2025年はこれに香港の106億米ドル、中国の75億米ドル、マレーシアの45億米ドルが続きました。2010年から2025年までの間に、シンガポールはインドネシアへの外国直接投資全体の28.6%にあたる2,055.71兆ルピアを拠出しました。[4]

統計が記録するのは直接の投資家の国です。シンガポールからの投資として登録されたものの大部分は、第I部第I章で説明するとおり、東南アジア事業をシンガポールから統括する多国籍グループの資本です。別の一部は、国内企業をシンガポールのビークルを通じて保有するインドネシアの家族やグループのものです。こうしたストラクチャーは、シンガポールの銀行と資本市場へのアクセス、投資協定による保護、そして株主間の紛争に対する中立的な法廷を提供します。同時に、一部の所有者はこれによってインドネシア資産の最終的な所有関係をインドネシア税務当局の目から遠ざけることができました。これが、ジャカルタが繰り返し透明性の向上を求めてきた理由の一つです。

両国間の租税条約が、こうした資金の流れの枠組みとなっています。当初の条約は1992年から効力を有していました。改定条約は2020年2月4日、シンガポール側はインドラニー・ラジャ、インドネシア側はスリ・ムルヤニ・インドラワティによって署名されました。改定条約は、使用料と支店利益に対する源泉徴収税率を引き下げ、一定のキャピタルゲインについて

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

源泉地国での免税を定め、条約濫用防止に関する国際基準を取り入れています。[5] 改定条約は2021年7月23日に発効し、2022年1月1日から適用されています。[6] 新条約の主要目的テストにより、条約上の特典の取得を主な目的とするストラクチャーについて特典を主張することは難しくなっています。

プライベートバンキング、ファミリーオフィスとインドネシアの顧客

シンガポールのプライベートバンクにとって、インドネシアは数十年にわたり、シンガポール国内を除けば最も重要な単一市場でした。インドネシアの顧客は伝統的にシンガポール本国から対応を受けており、顧客の側がバンカーのもとへ足を運んできました。関係はしばしば複数世代にわたり、プライベートバンキングと家族の企業グループ向けのコーポレートバンキングが組み合わされています。シンガポールの地場銀行もインドネシアで独自の拠点を築いてきました。DBS、OCBC、UOBはいずれもインドネシアに銀行子会社を持ち、これによって顧客の国内事業に関する知見を得ています。[7]

インドネシアの家族資産の構造は、恩赦以降に変化しました。かつて番号口座や名義人口座で保有されていた資産は、現在ではインドネシアで申告され、自動的情報交換の下で報告されています。多くの家族は資産をシンガポールに置いたまま、信託、持株会社、シングル・ファミリーオフィスへと再編しました。その税務上の取扱いは第E部第III章および第E部第IV章で扱います。動機は秘匿性から安全性へと移りました。ルピアからの分散、国際的な投資へのアクセス、事業承継計画、政治リスクからの保護です。インドネシアの顧客は、第I部第II章で考察する中国からの顧客とともに、こうしたストラクチャーの最も重要な利用者であり続けています。

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

注

1. Wikipedia, “Indonesia–Singapore relations”（2026年11月最終閲覧）：“In early 1965, two Indonesian Marines blew up the Macdonald house building in Singapore”。1968年の2人の海兵隊員の処刑を受け、約300人の学生がジャカルタのシンガポール大使館を襲撃しました。Wikipedia, “Indonesia–Singapore relations”（2026年11月最終閲覧）：“Indonesia and Singapore established diplomatic relations on 7 September 1967.”。 ↩

2. “Singapura sumbang repatriasi tax amnesty terbesar”, *Kontan*, 2017年3月29日、租税総局の資料を引用：シンガポールからの国外資産の申告751.19兆ルピア（73.08%）、英領ヴァージン諸島76.92兆ルピア（7.48%）、香港56.27兆ルピア（5.47%）、ケイマン諸島52.86兆ルピア（5.14%）。“Tax Amnesty Program Indonesia Ended, What Are the Results?”, indonesia-investments.com, 2017年4月3日：申告資産総額4,865.7兆ルピアは約3,660億米ドルとされており、これは1米ドル約13,300ルピアのレートを意味します。シンガポール分の数字の換算は著者の計算によります。 ↩

3. “Tax Amnesty Program Indonesia Ended, What Are the Results?”, indonesia-investments.com, 2017年4月3日：インドネシア人はシンガポールに約2,600兆ルピアを保有し、そのうち約650兆ルピアが不動産などの投資不適格資産であると推計されています。“Upaya Singapura Cegah Repatriasi Dinilai Tak Langgar Hukum”, *Hukumonline*, 2016年7月27日、Center of Indonesia Taxation AnalysisのYustinus Prastowoの発言を引用：“Hampir 60% nasabah perbankan Singapura adalah WNI”。 ↩

4. “Top 5 Foreign Investor Countries in Indonesia 2025, Singapore Dominates”, *Databoks* (Katadata), 2026年1月19日、2026年1月15日の投資省/BKPMの記者会見を引用：シンガポール174億米ドル（本文では30.9%、要約では30.1%）、香港106億米ドル、中国75億米ドル、マレーシア45億米ドル。“Singapore, the Largest Investor in Indonesia in 2024”, *Databoks*, 2025年、およびBKPMを引用するその他の報道：2024年に201億米ドル

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

（2025年1月31日の記者会見におけるロサン・ルスラニ大臣の発言では200.7億米ドル）。“Singapore, the Largest Source of Foreign Investment in Indonesia Over the Last 15 Years”, *Databoks* (Katadata), 2026年10月27日、投資・川下産業省/BKPMを引用：2,055.71兆ルピア、2010〜2025年の外国投資総額の28.6%。 ↩

5. Ministry of Finance Singapore、プレスリリース“Singapore and Indonesia Sign An Updated Avoidance of Double Taxation Agreement”、2020年2月4日（mof.gov.sg）：インドラニー・ラジャとスリ・ムルヤニ・インドラワティが署名。改定は“lowers the withholding tax rates for royalties and branch profits”、“provides for tax exemption in the source State for certain capital gains”、“incorporates internationally-agreed standards to counter treaty abuse”とされ、既存の条約は“has been in effect since 1992”とされています。 ↩

6. IRAS, “Updated Singapore-Indonesia Agreement for the Elimination of Double Taxation Enters into Force”（iras.gov.sg、2026年11月最終閲覧）：同条約は“entered into force on 23 July 2021”。Sovereign Group, “Revised Singapore-Indonesia tax treaty brought into force”, 2021年9月16日：両当事国の批准を経て7月23日に発効し、“effective as of 1 January 2022”。 ↩

7. DBS（PT Bank DBS Indonesia）、OCBC（PT Bank OCBC NISP Tbk）、UOB（PT Bank UOB Indonesia）のインドネシア子会社については、3グループの2025年の年次報告書を参照。 ↩

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned.

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.